

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回30分×8回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。

下記の黒字が今回の掲載回です。

※テキストスタイル、進学クラス・特進クラス共通の教材見本です。

小説：場面と気持ち

- 1 要点学習 要点
- 2 応用学習 読解演習 1
- 3 応用学習 記述トレーニング
- 4 応用学習 読解演習 2
- 5 応用学習 知識トレーニング
- 6 応用学習 速読トレーニング
- 7 添削問題 添削問題 1
- 8 添削問題 添削問題 2

1

要点学習 小説：場面と気持ち

要点

要点

小説：場面と気持ち 要点

今回の単元を学習すると……

小説の中の〈気持ちを表す言葉〉を見つけることで、**自分で本文中から手がかりを見つけて、登場人物の気持ちをとらえることができるよう**になります。

気持ちの読み取り方

- (1) 描かれている場面をとらえる
- ←
- (2) 文章の中から、**気持ちを読み取れる言葉**を見つける
- ←
- (3) 場面と結びつけて気持ちを読み取る

【1】描かれている場面をとらえる

●四つのポイントに注目して、場面をとらえる

小説は、場面の变化によってストーリーが展開します。まずこの場面についておさえることが、小説の読解の基本です。次の四つのポイントに注目して、場面をとらえましょう。

- ① いつ（時間）
- ② どこで（場所）
- ③ だれが（登場人物）
- ④ どうした（できごと）

登場人物の気持ちは、場面をおさえたうえで、**〈このとき、このできごとによって、この人物はどのような気持ちになったのか〉**というように考えていきます。**場面と気持ちを結びつけてとらえることが大切です。**

【2】気持ちを表す言葉を見つける

●気持ちが読み取れる言葉に着目して、登場人物の心情をおさえる

場面をおさえたら、人物の気持ちが読み取れる言葉を探します。次のような言葉に注目して見つけましょう。

- ① **気持ちが直接表す言葉**（例「うれしい」「さびしかった」）
- ② **発言・心の中の言葉**（例「どうしたらいいだろうと思った」）
- ③ **人物の様子や表情を描いた言葉**

（例）「そわそわしている」「にっこり笑った」

①は、直接的な表現で示されているのでわかりやすいですね。ただし、会話文の中にある場合は、それが発言した人物の本音かどうか、前後を讀んで確認することが必要です。

②は、「……」と思った」などの表現を手がかりに見つけます。心の中の言葉はすべて本当の気持ちととらえてよいでしょう。

③は、人物の様子や表情を描いた部分をもとにして気持ちを讀み取ります。次のような、気持ちを表す慣用句となっている表現も多くありますので、少しずつ覚えていきましょう。

- ・「胸をなでおろす」→安心する気持ち
- ・「息をのむ」→驚く気持ち
- ・「首をひねる」→疑う気持ち
- ・「目を輝かせる」→喜ぶ気持ち・期待する気持ち
- ・「目が点になる」→あきれられる気持ち・驚く気持ち
- ・「目を細める」→うれしい気持ち
- ・「口をとがらせる」→不満に思う気持ち
- ・「唇を噛む」→くやしい気持ち
- ・「頬がゆるむ」→うれしい気持ち
- ・「頬を膨らます」→不満に思う気持ち
- ・「眉をひそめる」→心配する気持ち・不快に思う気持ち

【3】場面と結びつけて気持ちを讀み取る

【1】と【2】で確認したことをもとに、その場面はどんな場面で、登場人物はどんなふうに感じているかをとらえます。

例文で確認！

「次郎は兄といっしょに父（俊亮）に泳ぎを教えてもらっている。」
「さあ今度は次郎だ。」

次郎は、父の顔と水を見くらべながら、ちよつと尻ごみした。
「大丈夫だ。父さんが抱いてやる。」

俊亮は、自分の両腕の上に次郎を腹ばいさせて、ぐいぐいと深みにつれて行った。恐怖と安心とが、ごつちやになつて次郎の心を支配した。

「いいか、そうれ。……足をしっかり動かすんだ。手だけじゃいかん。……うむ。そうそう。……おつと、そう頭をもたげちゃだめだ。ちつとぐらい水をのんだつて、死にやせん。」

俊亮はめつちやくちやに跳上るしぶきを、顔一ぱいに浴びながら、そろそろと次郎の体を前進させてやった。次郎は一所懸命だった。そして非常に愉快でもあった。

（下村湖人『次郎物語』）

赤い線をつけた部分に、次郎の気持ちが表れていますね。【泳ぐことへの不安→安心感→愉快的な気持ち】という気持ちの変化が讀み取れます。

ポイント

場面が変わると、登場人物の気持ちも変化することが多いので、注意して読みましょう。

次のページで、「例題」に取り組みましょう。

小説：場面と気持ち 例題

例題

〈場面〉と〈気持ち〉に注意して、次の文章を読みましよう。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 〈場面〉について次のようにまとめます。空欄①～③にあてはまる言葉を文中から抜き出して書きなさい。

【いつ】 ある日

【どこで】 浜通りで

【だれが】 ① が

【どうした】 ② を

③ と見まちがえた。

問二 清兵衛の気持ちが読み取れる表現をできるだけたくさん見つけて、その部分に――を引きなさい。

解説

問一 場面をとらえるには、**へいつ・どこで・だれが・どうした**をおさえるのでしたね。特に〈だれが・どうした〉は、人物の気持ちの理解に直接かわるので重要です。

この文章の場合、〈だれが〉は「清兵衛が」、〈どうした〉は「爺さんの禿頭を瓢箪と見まちがえた」となります。したがって、①「清兵衛」、②「爺さんの禿頭」、③「瓢箪」が正解です。

問二 問一でおさえた場面で、清兵衛がどんな気持ちになったのかをとらえます。気持ちを読み取るには、①**気持ちを直接表す言葉**・②**心の言葉**・③**人物の様子や表情を描いた言葉**を見つけるのでしたね。①～③のポイントに注意して探していくと、次の箇所が見つかります。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

ここでは、問一でとらえた場面を、さらにABの二つに分けています。場面と気持ちを整理してみましょう。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

瓢箪だと思っていたものが禿頭だと気づいたところで、清兵衛の気持ちも、

〈ときめき感心する〉→〈自分に驚き、おかしく思う〉

と変化していることがわかりますね。

このように、**場面、特に〈できごと〉と気持ちには深いつながりがある**ということ、しっかり覚えておいてください。

解答

- 問一 ①清兵衛 ②爺さんの禿頭 ③瓢箪
問二 「解説」に示してあります

確認問題

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(1)とありますが、なぜこのように感じたのですか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア 教員採用試験という狭き門を突破してきたことを、面と向かって染谷からほめられたから。
- イ 染谷は厳しい状況をくぐりぬけて教師になったのに対して、自分はまだぼんやりと教師になったただだったから。
- ウ 父親を早くに亡くして母と子で苦労してきた染谷の境遇について、自分は全く理解していなかったことに気づいたから。

問二 傍線(2)とありますが、このときの染谷の気持ちとして最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア 教員になれることが決まり、母親に苦労をかけているという重圧から解放されることをうれしく思っている。
- イ 父親が死んでから長い間母と二人で積み重ねてきた苦労を思い出し、悲しく思っている。
- ウ 母親が、父の死後の苦しさやつらさを胸にしまっただけでがんばっていたことを知り、切なくなっている。

解説

まず、良太の気持ちや置かれている立場がわかるところに――を、染谷の気持ちや置かれている立場がわかるところに――を付けると、次のようになります。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

解答

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 イ
問二 ウ

「要点」で学習した内容をふまえて、問題を解いていきましょう。

読解演習

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(a)～(c)のカタカナを漢字に直して書きなさい。

(a)

(b)

(c)

問二 「ぼく」は家の中をどのような順番で移動していますか。次の空欄A・Bにあてはまる最も適切な言葉を、文中からそれぞれ二文字で探し、抜き出して書きなさい。



A

B

問三 傍線(1)とありますが、「ぼく」はなぜ「母親の後ろ姿を見て」いたのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 母親に冷蔵庫から麦茶を出してもらいたかったから。
- イ 母親が洗い物をするのを邪魔しては悪いと思ったから。
- ウ 母親が自分に気持ちを向けてくれるのを待っていたから。
- エ 母親がいつまで気づかずにいるか試してみたかったから。

問四 傍線(2)とありますが、このとき「ぼく」はどのような気持ちだったのですか。「外泊」という言葉を必ず用いて、三十字以内で説明しなさい。

問五 傍線(3)とありますが、このときの母親の心情として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 「ぼく」が外泊することに反対しようと思っているが、なんと云ったらよいのかわからないでいる。
- イ 「ぼく」の父親が、意外にも外泊を許可したので、突然のことにあっけにとられてしまっている。
- ウ 父親が急に台所に現れて、一方的に「ぼく」の外泊に賛成したので、いらだちを感じている。
- エ 父親と「ぼく」が同じ意見を言うので、味方がいなくなってしまうことに寂しさを感じている。

問六 傍線(4)とありますが、「ぼく」はなぜ「父親に礼を言うべきかどうか迷った」のですか。三十五字以内で説明しなさい。

問七 傍線(5)とありますが、このときの「ぼく」の心情として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 外泊を許してくれたので、それまでは距離を感じていた父親に対して、急速に親近感がわいている。
- イ 自分が外泊している間に、父親が何か悪いことを起こすのではないかと不安になり、警戒している。
- ウ 父親に初めて外泊することを許され、急に大人になったような気がして、くすぐったく思っている。
- エ 外泊を許してもらえて喜んでよいはずなのに、父親の本心かわからず、落ち着かない気持ちでいる。

--

解答解説

解答

問一 (a) 注 (b) 宅 (c) 映

問二 A 台所 B 居間

問三 ウ

問四 母親に外泊を許してもらえるかどうかかわからず、緊張する気持ち。(30字)

問五 イ

問六 「ぼく」にとって父親はあまり家にいない怖い人で、話しづらかったから。(34字)

問七 エ

解説

問一 (a) 「注ぐ」は、〈液体などを入れる〉という意味なので、「注入」「注射」などの熟語を思い浮かべるとよいでしょう。

(b) 「お宅」というのは、ここでは相手の家や家庭のことを表す丁寧語です。

(c) 「映す」は「移す」「写す」など、さまざまな同訓異字がありますので、使い分けに注意しましょう。〈スクリーンやテレビなどに映像を映すこと〉という意味のときは、「映す」と書くのが適切です。

問二 主人公の「ぼく」が、文中でどのように家の中を移動しているかが問われています。この問題文では、「ぼく」が移動することで場面が変化していています。まとめてみましょう。

・父親の後ろ(↓居間)をそつと通り抜けて、台所に入った。

↓台所で、母親から外泊の許可をもらおうとする

・居間に戻ると、父親はあぐらをかいてビールを飲んでいた。

↓居間で、外泊を許可してくれた父親にお礼を言う

・自分の部屋に入った。

↓自分の部屋で、外泊の準備をしながら変な気分になる

このように、「居間→台所→居間→自分の部屋」の順番で移動していますから、正解はA「台所」、B「居間」です。

問三 傍線(1)での「ぼく」の行動の理由を読み取る問題です。傍線部の直後の表現に着目しましょう。

「ぼく」は、外泊の許可をもらいたくて、母親が振り向いてくれるのを待っていたとわかります。〈早く振り向いて「何か用？」と聞いてくれないかな〉という思いで、「ぼく」は母親の後ろ姿を見ていたのですね。したがって、正解はウとなります。

母親は、食器洗いに集中しているのか、台所に入ってきた「ぼく」になかなか注意を向けてくれません。そんな母親の後ろ姿を見ながらじつと待つ様子から、「ぼく」のおとなしく気弱な性格を読み取ることができます。

選択肢をチエック!

ア 母親に冷蔵庫から麦茶を出してもらいたかったから。
 イ 母親が洗い物をするのを邪魔しては悪いと思つたから。

ウ 母親が自分に気持ちを向けてくれるのを待っていたから。
 エ 母親がいつまで気づかずにいるか試してみたかったから。

アこのような気持ちは読み取れません。イ洗い物を終えるのを待っていたのなら「早く振り向いてくれればいいのに」ではなく、「早く洗い終わればいいのに」と思つたはずです。エこのようにゲームを楽しむような気持ちの余裕を、この場面から読み取ることはできません。

問四 傍線(2)での「ぼく」の気持ちが問われています。麦茶の味がしないということとは、麦茶を味わう余裕がないということです。

「ぼく」は思い切つて外泊の話を切り出しますが、母親はあれこれ質問し、すんなりとは外泊を認められません。そんな状況の傍線(2)での気持ちを一言で表すと、「緊張する気持ち。」でしょう。

更に、設問文に「外泊」という言葉を用いるようにという条件がありますから、なぜ「緊張」しているのかという説明も加えましょう。

【理由】 母親が外泊を許してくれるかどうか分からないから。

この点を加えて、「ぼく」の気持ちを制限字数以内でまとめます。

○つけのポイント

① 「母親が外泊を許してくれるかどうか分からない」という点が書けているか。

② 「緊張」または「不安・心配」という「ぼく」の心情が書けているか。

① 母親に外泊を許してもらえるかどうか分からず、緊張する
 ② 緊張する
 ③ 気持ち。

③ 文末の形は「気持ち(だった)」または「(気持ちを表す言葉+)」とする。

【こんな解答は△】

△ 母親が許してくれるかどうか分からず、不安な気持ち。(25字)

* 「何を」許してほしいのかという説明が不足しています。また、

「外泊」という言葉を使うという設問条件にも反していますね。

「外泊」という、母親に頼んだ内容を説明しましょう。

△ 今まで友だちの家に外泊したことがなかったので緊張する気持ち。(30字)

* 「ぼく」が(母から許可を得ようとして)いること(を)を説明しよう。

問五

傍線(3)「ぼかんとした顔」という表情から、このときの母親の心情を読み取ることが求められています。「ぼかんとする」という表現は、「ぼんやりする・あっけにとられる」という意味です。

傍線部前後で、母親の心情は次のように変化しています。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

このように、外泊についての母の気持ちは**反対から賛成に変化**しています。そして、この変化をもたらしたのは、父親の「いいんじゃないか？」という**発言**だったとわかります。母親は、父親のこの言葉を受けて、外泊を許してくれたわけです。これに合うイが正解です。

選択肢をチエック!

ア 「ぼく」が**外泊**することに**反対**しようと思っ**ている**が、**なん**と言っ**たら**よいの**かわ**からない**で**いる。

イ 「ぼく」の父親が、意外にも**外泊**を許可したので、突然のこと**にあ**っけにとられてしまっ**て**いる。

ウ 父親が急に台所に現れて、一方的に「ぼく」の**外泊**に賛成したので、**いら**だちを感じ**て**いる。

エ 父親と「ぼく」が**同じ意見**を言うので、**味方**がいなくなっ**て**しまっ**た**ことに寂しさを感**じ**ている。

母親は傍線部直後で外泊を許可しているので、アの「反対しようと思っ**て**いる」は不適切です。また、あっさり外泊を許可した母親の様子からウ「いらだち」、エ「寂しさ」は読み取れません。

問六 「ぼく」が父親にお礼を言うのを迷った理由を説明する問題です。傍線部の直後で「ぼく」の父親に対する思いが説明されています。

問題文の「」を見よう！

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

ここから、「ぼく」は父親と話すのが怖いので、お礼を言うのをためらってしまうのだとわかります。解答は、この部分の表現を使い、「父親とは話しづらく」〈ぼく〉にとってあまり家にはいない、怖い人」という点をおさえてまとめましょう。

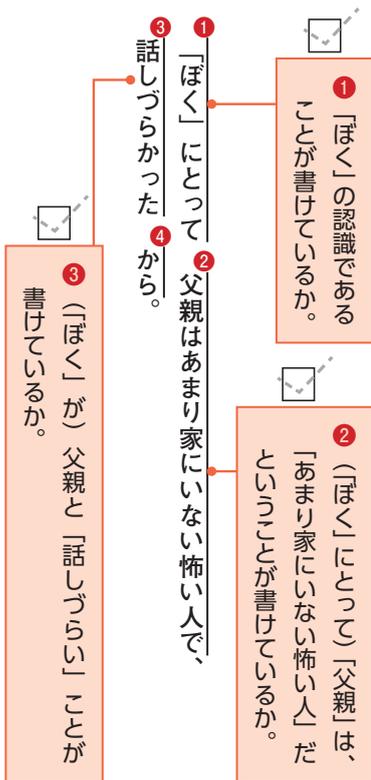
また、「ぼく」の父親に対する気持ちは、次のような表現からも読み取ることができます。

問題文の「」を見よう！

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

父親に近づくことに慣れておらず、なんとなく苦手に感じていることが、「ぼく」の行動や様子の描写からも伝わってきますね。

○つきのポイント



④文末の形は「から」「ので」「ため」などの〈理由であることを表す文末表現〉＋「。」とする。

※②と③の内容をいずれもおさえていないものは、この問不可。

【こんな解答は△】

△父親とはなんとなく話しづらかったし、いつも避けていたから。(29字)

*まず「ぼく」の印象である点①の内容を明確にしましょう。また、「ぼく」が「父親はあまり家にはいない怖い人だ」と考えている点②の内容も説明しましょう。

問七 傍線(5)「変な気分」という「ぼく」の心情がどのようなものかが問われています。傍線部直後の表現から考えましょう。

問題文の「」を見よう！

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

父親は「ぼく」にとって怖い人です。そんな父親が、なぜか突然外泊を許してくれたことに、「ぼく」は素直すなおに喜べず不安になっているのですね。したがって、正解はエとなります。

選択肢をチエック！

- ア 外泊を許してくれたので、それまでは距離を感じていた父親に対して、×急速に親近感がわいている。
- イ 自分が外泊している間に、×父親が何か悪いことを起こすのではないかと不安になり、警戒している。
- ウ 父親に初めて外泊することを許され、×急に大人になったような気がして、くすぐったく思っている。
- エ** 外泊を許してもらえて喜んでよいはずなのに、父親の本心がわからず、落ち着かない気持ちでいる。

ア父親に親しみをおぼえている様子は読み取れません。イ「父親が何か悪いことを起こす」とは思っていない。ウ「ぼく」は喜びよりも不吉ふきつさを感じているので不適切です。

5

応用学習 小説…場面と気持ち

知識トレーニング

Z会が厳選した頻出の漢字や言葉を学習していきましょう。

漢字 ①

次の中学新出漢字について、用例(例)を三回ずつ練習しましょう。

<p>伸</p> <p>訓 音 のびる シン のびる</p> <p>例 伸ばす</p>	<p>襲</p> <p>訓 音 おそう シュウ おそう</p> <p>例 空襲</p>	<p>恵</p> <p>訓 音 めぐむ ケイ めぐむ エ</p> <p>例 恵み</p>	<p>懐</p> <p>訓 音 なつかしい カイ なつく 懐かしい なつかしい なつかしむ なつかしむ ふとこころ</p> <p>例 懐かしい</p>	<p>隠</p> <p>訓 音 かくす イン かくす かくれる</p> <p>例 隠す</p>
<p>離</p> <p>訓 音 はなれる リ はなれる はなす</p> <p>例 離れる</p>	<p>幅</p> <p>訓 音 はば フク はば</p> <p>例 歩幅</p>	<p>踏</p> <p>訓 音 ふむ トウ ふむ ふまえる</p> <p>例 雑踏</p>	<p>択</p> <p>音 タク</p> <p>例 選択</p>	<p>即</p> <p>音 ソク</p> <p>例 即座</p>

解答解説

解答

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| (10) 選択 | (7) 即座 | (4) 隠す | (1) 歩幅 |
| | (8) 空襲 | (5) 恵み | (2) 伸ばす |
| | (9) 離れた | (6) 懐かしい | (3) 雑踏 |

解説

- (1) 「幅」の訓読みは「はば」、音読みは「フク」です。
- (2) 長さや力を「ノバス」ときは「伸ばす」、時間や期間を遅らせるときは「延ばす」の字を用いるのが一般的です。「伸長」「屈伸運動」「延期」「延長」といった熟語を思い浮かべると、わかりやすいでしょう。
- (3) 「踏」の訓読みは「ふ・む」「ふ・まえる」で、音読みが「トウ」です。「雑踏」は「人ごみ」のことです。
- (4) 「隠」の音読みは「イン」で、「隠居」などと使います。「穩」と字形が似ているので、間違えないようにしましょう。
- (5) 「恵」の訓読みは「めぐ・む」で、音読みは「ケイ」「エ」です。「恩恵」「知恵」などと使います。

(6) 「懐かしい」は送り仮名に注意が必要です。送り仮名も含めて書き取りの練習をしましょう。

(7) 「即」は「すぐに」という意味で、他に、「即席」「即断」など使います。

(8) 「襲」の訓読みは「おそ・う」で、音読みは「シュウ」です。画数が多いので、注意して書きましょう。特に「龍」の右側の部分は画数に注意です。

(9) 「離」の訓読みは「はな・れる」「はな・す」で、音読みは「リ」です。「離任式」「離別」などと使います。左側の字形に注意して書きましょう。

(10) 「センタク」には「洗濯」という漢字もありますが、ここでは文脈から「選択」がよいとわかります。

言葉

言葉トレーニング

問一 次のことわざ・慣用句・四字熟語の意味をあとのア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい（同一記号の反復使用不可）。

- (1) 馬子まじこにも衣装ひとみ
- (2) 瞳ひとみを凝こらす
- (3) 気が置けない
- (4) 心機一転

- ア 遠慮えんりよする必要がなく、うちとけて付き合えること。
- イ 誰たれでも外形かたちを飾かざると立派りっぱに見えること。
- ウ じっと見つめること。
- エ あるきつかけで、すっかり気持ちが変わること。

(3)	(1)
<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>
(4)	(2)
<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>

問二 次の言葉の意味をあとのア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい（同一記号の反復使用不可）。

- (1) ほとほと
- (2) おちおち
- (3) 案の定
- (4) どうてい
- (5) さばさば

- ア (あとに否定的な表現がきて) どうやっても。どうしても。
- イ 思ったとおり。はたして。
- ウ 物事に深くこだわらず、あっさりしているさま。
- エ (あとに否定的な表現がきて) 落ち着いて。
- オ まったく。つくづく。

(4)	(1)
<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>
(5)	(2)
<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>
	(3)
	<input style="width: 50px; height: 50px;" type="text"/>

解答解説

解答

- 問一 (1) イ (2) ウ (3) ア (4) エ
- 問二 (1) オ (2) エ (3) イ (4) ア (5) ウ

解説

問一 今回出題した言葉をすべて盛り込んだ、次の文章で用例を確認しておきましょう。

今日は入学式。制服を着たら、父に「馬子にも衣装だな」と言われた。学校に行く途中、向こうから誰か走ってきた。瞳を凝らすと、三年生のときに転校した友達だった。仲が良かったので、同じ中学校になれてとてもうれしい。気が置けない友人と一緒に始まる中学校生活。心機一転、がんばろう。

ドクマツプ

「気が置けない」

この言葉の「気」とは、〈あれこれと考える心・気遣い・心配〉という意味で用いられていますので、「気が置けない」とは、〈気遣い・心配がいらぬ〉↓〈気楽につき合える〉という意味になります。しかし、この本来の意味を理解せず、「気が置けない」を〈気を許せない・油断できない〉という意味で誤って使う例が見受けられます。正しい意味で使うようにしましょう。

問二 今回出題した言葉をすべて盛り込んだ、次の文章で用例を確認しておきましょう。

新しいクラスには、勝ち気ではつきり意見を言う人が多い。入学早々、口げんかしてばかりなので、先生はほとほとあきれ、「おちおち職員室にいられない」とこぼしていた。秦の定、学年でいちばん騒がしいクラスだと言われている。最初はとうていなじめないのでは……と不安だったが、みんな陽気でさばさばしているので、毎日楽しく学校に通っている。

ドクマツプ

「とうてい」

「とうてい……ない」のように、言葉には決まった言い方を引き出すものがあります。「とうてい」の他に、「決して」「少しも」「めつたに」「ろくに」なども、否定的な表現とセットになります。このような言葉は、決まった言い方をセットで覚えておきましょう。

漢字クイズに挑戦!

次のア～エのうち、傍線部の読み方が他とは異なるものを選び、記号を書きなさい。

- (1) ア 海辺で流木を拾い集める。
イ 大規模な土木工事が行われる。
ウ 家を建てるための材木を調達する。
エ 弟が庭で木刀を振り回して遊んでいる。
- (2) ア 豊作で野菜の値段が下落する。
イ この地域は下水道が整備されている。
ウ 小学生が集団で下校している。
エ 地下には多くの資源が眠っている。

知っ得! この漢字

ここでは、中学校では習わないけれど、知っていたり書けたりするとちよつとカッコいい漢字を取り上げます。

【今月のテーマ】花の名前

次の漢字はなんと読むでしょうか。

(4)	(3)
紫	向
陽	日
花	葵

★ワンポイント

漢字から読み方の想像がつかないものは、昔の人が、中国での表記に日本語の呼び名をあてたものが多いようです。

読 (1) (3) (1) (3)
 (2) (4) (2) (4)
 (1) (4) (2) (4)

解答解説

解答

- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| (10) 光沢 | (7) 嘆き | (4) 距離 | (1) 勧誘 |
| | (8) 人柄 | (5) 超過 | (2) 浮かぶ |
| | (9) 引越 | (6) 疲れた | (3) 珍しい |

解説

(1) 「勧」はよく出題される漢字です。「飲」と間違えないように注意しましょう。訓読みの「すすめる」は、〈相手に何かをするように働きかける・相手に飲食や使用を促す〉意で、「保険への加入を勧める」「お茶を勧める」などと使います。

(2) 「浮」は音読みの場合、「フ」と読み、「浮上」などと使います。

(3) 「珍しい」は、送り仮名を間違えやすい漢字です。音読みは「チン」で、「珍事」「珍重」などと使います。

(4) 「距」は「離」と同様、〈へだてる・離れる〉の意があり、「距離」は似た意味をもつ漢字を重ねた熟語となっています。なお、「離」は「新出漢字トレーニング」で既に学習した漢字でしたが、正確に書けたでしょうか。

(5) 「超」の音読みは「チョウ」で、他に「超音波」「超絶」などの熟語を作ります。

(6) 「疲」の音読みは「ヒ」で、「疲労」という熟語を覚えておくとういでしょう。部首が「まだれ」ではなく、「やまいだれ」であることに注意が必要です。

(7) 「嘆」は「なげく」という訓読みの他に、「タン」という音読みがあり、「感嘆」「驚嘆」などの熟語を作ります。

(8) 「柄」の訓読みは、「がら」の他に「え」があります。音読みは「エイ」で、「横柄」などと書きます。

(9) 「越」の訓読みは「超」と同じ「こえる」「こす」ですが、一定の数量や基準を上回る場合は「超える」、境界を過ぎる場合などその他は一般に「越える」を使います。両方の音読みを重ねた「超越」という熟語もあります。

(10) 「沢」の「さわ」という訓読みはなじみがあると思いますが、音読みでは「タク」と読みます。先に「新出漢字トレーニング」で学習した「選択」の「択」と間違えないようにしましょう。

M · E · M · O

※ここからは『Z Study 解答用紙編』の国語「小説：場面と気持ち」2枚目に記入ください。

二

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(50点)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(a)～(d)の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直して書きなさい。(各2点)

問四 傍線(3)とありますが、あすかはなぜ木を植えたのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(6点)

問二 傍線(1)とありますが、このときのじいちゃん的心情として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(6点)

ア 周囲から兄ばかりが大切にされているうらやましさから、ささくれだつた気持ちになったから。
 イ ちやほやされている兄を悲しませるために、大きくなる前に梨の実を落とそうと思ったから。
 ウ 大きな音を立ててじいちゃんの気を引くことで、兄のことから話題をそらしたかったから。
 エ 兄の分身のような梨の木を通して、兄に自分の気持ちを伝えられないか試したかったから。

ア 年々老いていく人間とは異なり、四十四年たつても変わらずに実をつける植物のたくましさに感動している。

イ 誕生記念に植えたももの木を見ながら、十六歳という若さでこの世を去った娘の春野のことを考えている。

ウ 若くして亡くなった娘との思い出があるももの木の存在を忘れていたことに、後ろめたさを感じている。

エ 娘の誕生記念に木を植えてから四十四年もたつたことを再確認し、自分も年をとつたと悲嘆にくれている。

問五 傍線(4)とありますが、じいちゃんは何からどのようなことをしようとしているのですか。三十字以内で説明しなさい。(8点)

問六 傍線(5)とありますが、なぜあすかは「胸がドキドキしてとまらない」のですか。三十五字以内で説明しなさい。(10点)

問三 傍線(2)とありますが、この理由をあすかはどのように考えましたか。それがわかる部分を文中から三十字以上三十五字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出して書きなさい。(6点)

問七 傍線(6)とありますが、このときのあすかの心情や様子を表す言葉として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(6点)

ア 安心感 イ 優越感 ウ 緊張感 エ 親近感

解 答 用 紙

禁無断転載



この答案の添削有効期限は

です。

※解答は、濃く、はっきりと記入してください。

小説：場面と気持ち

添削問題 2

2 / 2 枚目
CLT1A1-S1D2

総得点
39 / 50

二 CLT1A1-S1D2

「方角」

1
6 / 8

問一

(a)

こだち

(b)

方角

(c)

過

(d)

頭上

2
6 / 6

問二

イ



亡くなった娘に思いをはせるじいちゃんの姿をしっかりと読み取ることができましたね。

3
0 / 6

問三

最初 || 春野おばさん

最後 || しまったよ

あすかが考えを述べた箇所を探しましょう。あすかは春野おばさんとももを結びつけ、ママがももをきらいな理由を推測しています。

4
6 / 6

問四

ア



傍線部の前で述べられているあすかの兄への気持ちを正しく理解して、木を切った理由をおさえられましたね。

問題文をしっかりと読んでいた
ら、思っていたより時間がかか
りました。

難しかった問題

添削者より

問題文をしっかりと読むことはとても大切です。問題も丁寧に組み立てて、意欲が感じられましたよ。復習では解答解説と朱筆をよく読み、自分の解答に不足していた点を確認しておきましょう。

添削者名
長泉

5
7 / 8

問五

見	あ
せ	ず
て	か
	の
喜	生
ば	ま
せ	れ
よ	た
う	年
と	に
し	植
て	え
い	た
る	木
	を

傍線部でじいちゃんが手をふった相手はあすかです。
「あすかに」あんずの木を見せようとしたのですね。

-1

(注) 文末には句点「。」を付けましょう。

■ □ 要素ごとの出来をチェック

- ① 「あすかが生まれた年に植えた」という〈あんずの木の由来〉をおさえられたか。 ↓○
- ② 「あんずの木をあすかに見せる」という〈じいちゃんの行動〉をおさえられたか。 ↓△

6
8 / 10

問六

か	賞	じ
ら	え	い
	て	ち
	く	ゃ
	い	ん
	て	が
	い	、
	て	あ
	。	す
	う	か
	れ	の
	し	誕
	か	生
	っ	日
	た	を

誕

-1

四十六行目の「とびつきたいほど」という表現から、あすかの喜びが「大きい」ことをわかりやすく説明しましょう。

-1

■ □ 要素ごとの出来をチェック

- ① 「じいちゃんが自分の誕生日をおぼえていた」という〈胸がドキドキした理由〉をおさえられたか。 ↓○
- ② 「とてもうれしかった」という〈あすかの気持ち〉をおさえられたか。 ↓△

7
6 / 6

問七

エ



あすかの気持ちを正しくおさえられました。
あすかはあんずの木を「あすかの木」ととらえ、身近なものと感じていますね。